

平成26年度 □□□□ 内容梗概

内容梗概 作成の手引き  
—内容梗概の作成と提出—

研究題目

氏 名

吉野 眉子

【徳島研究室】

1. まえがき

本稿では、平成26年度 修士論文・卒業論文・電気電子工学セミナーの内容梗概の作成について述べる。

2. 内容梗概の作成

2.1 用紙・様式

用紙は配布のものを複写して利用するか、配布のものと同じものを独自に作成して利用してもよい。新たに様式を作成する場合には、A4版用紙を用いこの文書の様式を参考にして上下左右のマージンを調節、枠線を引いたものを作成する。特に、左マージンは綴じ代となるため必ず所定の寸法をとる。

文章の段組はこの文書のように2段組で書いてもよいし、1段組としてもよい。構成は節に分けてもよいし、分けなくてもよい。ただし、節に分けない場合には、研究の背景、自分の研究内容、研究手法、結果、まとめなどが明確に区別できるように段落を分ける。

2.2 文字

1行の文字数や行数は、  
1段組 50文字×36行  
2段組 24文字×36行  
以下とすることが望ましい。内容梗概は研究発表に際して限られた時間内に読まれるものであり、文章が1頁に入りきらないために文字を小さくしたり行間をつめたりしないようにする。また、読みやすいように字間と行間のバランスに注意する。

その他、文章の書き方については指導教官と相談する。文献 [1] などを参考にしてもよい。

2.3 図・表

図1に図の例、表1に表の例を示す。

3. 題目リストの提出

各研究室で、教員が修士論文、卒業論文、電気電子工学セミナー（夜間主）毎に『{指導教官名（または研究室名）}{発表者氏名}{研究題目}』を発表順に並べてテキスト形式で作成し、電子メールで大

屋教員 (hide-o@ee.tokushima-u.ac.jp) と山上技術職員

卒業論文  
電気電子工学セミナー  
修士論文

電気電子工学科  
電気電子工学科（夜間主コース）  
システム創生工学専攻（電気電子創生工学コース）

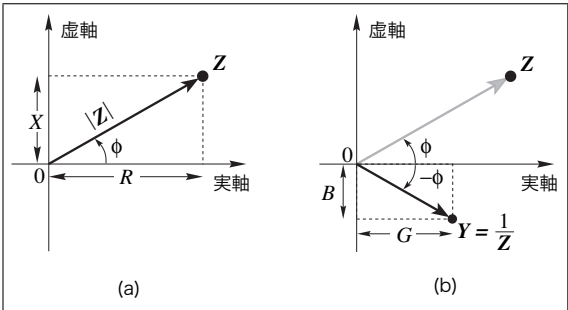


図1 サンプル図

(yamagami@ee.tokushima-u.ac.jp) まで送付する。  
締切: 平成27年1月29日（木）17:00 厳守

4. 内容梗概の提出

内容梗概を発表順に並べたPDFをファイル名{指導教員名（または研究室名）}{修論 or 卒論 or セミナー}.pdfで作成し、山上技術職員 (yamagami@ee.tokushima-u.ac.jp) まで提出する。

締切: 平成27年2月5日（水）17:00 厳守

5. むすび

この文書は、大家教員が日本語LaTeXにて内容梗概用のスタイルファイル(脚注1)を作成し、そのスタイルファイルを用いて作成したものである。これを利用すれば題目、氏名や文章を打つだけで内容梗概の様式を作成してくれる。ただし、マージンはプリンタ毎に異なるので各自の調節が必要である。

参考文献

[1] 電気電子システム講座・知能電子回路講座: “卒業論文・修士論文 作成の手引き(脚注2)”, 平成11年1月。

表1 サンプル表

$\alpha$ alpha	$\eta$ eta	$\nu$ nu	$\tau$ tau
$\beta$ beta	$\theta$ theta	$\xi$ xi	$\upsilon$ upsilon
$\gamma$ gamma	$\iota$ iota	$\omicron$ omicron	$\phi$ phi
$\delta$ delta	$\kappa$ kappa	$\pi$ pi	$\chi$ chi
$\epsilon$ epsilon	$\lambda$ lambda	$\rho$ rho	$\psi$ psi
$\zeta$ zeta	$\mu$ mu	$\sigma$ sigma	$\omega$ omega

(脚注1) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/person/S10729/TeX/style/ee/eeabst/>  
(脚注2) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/person/S10729/TeX/style/ee/eeaper/eeaper.pdf>

# 平成26年度 修士論文 内容梗概

システム創生工学専攻（電気電子創生工学コース）

研究題目	
氏 名	【 】

# 平成26年度 卒業論文 内容梗概

電気電子工学科

研究題目	
氏 名	【 】

# 平成26年度 電気電子工学セミナー 内容梗概

電気電子工学科（夜間主コース）

研究題目	
氏 名	【 】